

多世代交流における「居場所」としての実態

一品川区(東京都)と戸田市(埼玉県)の事例から

横浜国立大学大学院 環境情報学府 博士課程後期
福井 弘教

1. 研究背景

核家族化が進行して久しい日本であるが、一昔前までは大家族での生活が当たり前の時代があった。夫婦を基底として、子供がいて、そのいずれかの両親がいる、場合によっては双方の親もいる、いわば3世代以上の家族である。こうした多世代型家族の減少は、多世代型家族による、子供や高齢者の安全確保が困難になった。

2022年、幼稚園の送迎バス車内における置き去り事故が多発した。置き去り事故は死亡事故にもつながる重大な事案である。このような事案が頻発する事態は過去にみられず、近年、頻発する介護施設における入所者への事件同様に、当該施設労働者の質はもちろん、隠蔽体質など職場環境、経営環境に問題があることは自明である。しかし、仮に近所など諸事情によって関わるようになった幼稚園や介護施設が適切ではないと考えた場合であっても、核家族であれば、それらを利用する以外に手段がないことも現実としてある。これが、多世代型家族であれば、家にいる誰かが子供や高齢者をケアすることも選択肢に入ってくる。

そして、多世代型家族はケアだけではなく、相互教育の面からも有用である。子供は親、高齢者などから、逆に親や高齢者なども子供から多くの学びを得られる。過去には「おばあさん子」など、親に代わって子供との結びつきが強くなるケースも散見されたが、現在ではそうした結びつきも減少していると考えられる。

「多世代交流」の報告は、1991年からみられたが(地方行政システム研究所1991など)、多くの報告がみられるようになったのは2005年以降のことである(CiNiiなど各種データベース)。そして、2021年の重層的支援体制整備事業の創設(社会福祉法改正)¹⁾によって更なる増加が見込まれる。換言すると、この頃には少子高齢化をふまえて多世代型家族の減少が視野に入っていたとい

え、共生社会における重層的支援体制の整備が不可欠な時代となった。先行研究の類型としては、清宮(2007)や松田(2017)などの「教育」、福永(2016)などの「コモンスペース」、平戸(2019)などの「コミュニティ」といった視点からなされた報告に分類ができるが、多世代交流の可能性や方向性に関する報告が主流であり、「多世代交流の場」や「多世代交流施設」(以下、多世代交流場と記述する)を「多世代」が利用した結果、利用者や社会にとっていかなる効果があったのかなど、現状と課題を論考した報告は、管見の限りにおいて見当たらない。

「多世代交流場」といえば、子供や高齢者に焦点が当てられようが、「多世代」とは、前述した「3世代」の概念を踏襲して、「子供・高齢者・それ以外の年代の者」を指す概念として定義できる。したがって、全ての年代の者が利用するのが「多世代交流場」と考えて妥当であろう。

多世代交流場は、前述したケアや教育など、多様な目的を充足する可能性がある場であろうが、実際に利用する者にとっては、目的が何であるにせよ、まずは「居場所」として利用することが起点となるだろう。すなわち、「多世代交流」の以前に「居場所」として機能する必要がある。「居場所」についても多様な概念が包含されているが、多世代交流場を検討するにあたり、本稿では、「利用者が生活するにあたって必要不可欠な居場所以外の場」と定義する。子供であれば家庭や学校、それ以外の者であれば家庭、職場以外の居場所である。前述したデータベースで検索を行うと、「居場所、高齢者」と「居場所、こども」の検索結果を比較すると、後者が倍以上の報告となっており、いわば、「次世代」が報告の主流となっている。次世代の報告が主流であるのは事実としてあるが、少子高齢、少産多死による、孤独死など高齢

多世代交流における「居場所」としての実態

者の現状をふまえると高齢者の居場所も重要であるといえよう。

2. 研究方法

(1) 目的

「1. 研究背景」で提示したように、多世代交流場を「多世代」が利用した結果、利用者や社会にとっていかなる効果があったのかなど、現状と課題を論考した報告は、管見の限りにおいて見当たらなかった。

1) 核家族化の進展、2) 重層的支援体制整備事業の創設（社会福祉法改正）を背景として、今後も多世代交流場の増加が各地で見込まれるが、多世代交流場において、その名の通り「多世代交流」が実践されているのであるか。実践の詳細を含めた「多世代交流場」の実態を「居場所」の視点から探ることが本稿の目的である。

(2) 概要

現状において、「多世代交流場」は都市部を中心に設置、設定されていることが主流である。地方においては設置、設定をしても、人口が少ないことから、交流が困難となることが背景として考えられる。したがって、都市部の自治体を比較することで多世代交流場の実態を

表1:品川区と戸田市の基礎データ

区分	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
品川区	404,297	22.84	17701.27
戸田市	141,805	18.19	7795.77

出所:各自治体のHPをもとに筆者作成

探ることにしたい。比較によって、単一では浮上しない事象の発見が可能となる。本稿では、品川区（東京都）と戸田市（埼玉県）を対象とする。

品川区は、人口 404297 人、面積 22.84 km²で人口密度 16650.61 であり、戸田市は、人口 141805 人、面積 18.19 km²で人口密度 7768.00 となっており、面積に差はないが、人口密度は約 2 倍となっている。

品川区では、現在 4 ヲ所の多世代交流場があり、近い

将来に 5 ヲ所となる見込みである。なお、担当部署は高齢者地域支援課シルバーセンター係であり、多世代交流場を「多世代交流支援施設」という名称としている。

戸田市では、現在 8 ヲ所の多世代交流場があり、「2014 年（平成 26 年）12 月 1 日に始まった市民と市民をつなぐ憩いの広場です。どなたでもお気軽にご利用いただけます。・お子さんのいる子育て中の方々の情報交換の場として・おばあちゃんおじいちゃんの知恵袋を教えてもらえる場所として・夏のクールオアシス、冬のウォームシェアの場として」、多世代交流ひろばを利用できると規定している。なお、担当部署は協働推進課であり、多世代交流場を「多世代交流ひろば」という名称としている。

最初に、対象として選定した自治体の議論の推移をふまえて、多世代交流に関していかなる施策が展開されてきたのかを確認する。確認にあたり、関連する議事録の一部を抽出して提示するものとし、重複する箇所や発言者の氏名などは省略する。そして、施策展開を可視化するためにテキストマイニングを行う。

テキストマイニングについては、ユーザーローカルのテキストマイニングツールを用いて、以下の分析を行う。説明と結果図はユーザーローカル HP に依拠している (<https://textmining.userlocal.jp/>)。

1) 「単語出現頻度」（本稿では名詞に限定する）

文章中出现する単語の頻出度を表している。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになる。出現回数だけでなく、重要度を加味した値が「スコア」で、スコアが高い単語は、そのテキストを特徴づける単語である。

2) 「共起キーワード」

文章中出现するワードの出現パターンが以ている単語を線で結び、出現数が多いワードほど大きく表示され、また共起の程度が強いほど、太い線で描画される。なお、テキストマイニングは本文と注に対して行い、参考文献は除外する。

3. 結果

検索の結果、品川区では、132 文書が抽出された。議事録の変遷は現在から過去へ遡る表示となっている。な

多世代交流における「居場所」としての実態

お、検索日は2022年12月21日である。

(1) 品川区(東京都)における議事録の変遷

#1 厚生委員会_本文 2022-07-25

・・・シルバーセンターまたは多世代交流施設(ゆうゆうプラザ)にて、開催いたします。実施内容につきましては、4回を1コースとし、希望者を対象に受講期間中の4週間、スマホの貸出しを行います・・・

#4 行財政改革特別委員会_本文 2022-04-19

・・・地域の方から跡地活用として、いわゆる多世代交流のスペースというものが出ていると・・・多世代交流施設の必要性に関しましては、昨日の厚生委員会でも所管のほうから、一定必要性はあるだろう・・・

#5 令和4年_第1回定例会(第5日目) 本文 2022-03-25

・・・第21号議案、品川区立シルバーセンター条例の一部を改正する条例についてご報告申し上げます。本案は、施設の老朽化のため、高齢者多世代交流支援施設への改築工事を実施することに伴い、北品川シルバーセンターを廃止するものであります・・・

#17 厚生委員会_本文 2021-02-24

・・・区でも高齢化が進む中、超長寿社会に対応する視点を踏まえ、地域における共生社会の実現を目指しております。ゆうゆうプラザにおける多世代交流など、楽しくやりがいを持って参加できるような施設の支援の充実を図っておりますので、高齢者だけに特化した施設ではなく、幅広い世代の方にご利用いただける・・・

#23 厚生委員会_本文 2020-06-08

・・・高齢者多世代交流支援施設(ゆうゆうプラザ)は、高齢者の健康維持・増進を図り、高齢者と多世代の区民との交流を促進する施設でございます・・・

#24 令和2年_第1回定例会(第5日目) 本文 2020-03-27

・・・第24号議案、指定管理者の指定について、本案は、品川区立東品川高齢者多世代交流支援施設の管理を行わせるため、指定管理者を指定するものであります。指定する団体の名称は社会福祉法人福栄会・・・

#25 令和2年度予算特別委員会(第4日目)

本文 2020-03-09

・・・改築に合わせて、ここも多世代交流施設にしていくという考えなのではないでしょうか。敷地面積や改築要件などから従来の高齢者の利用が狭まってしまうということはないのか・・・高齢者地域支援費で、シルバーセンターや高齢者多世代交流支援施設、ゆうゆうプラザ、特別養護老人ホームなどさまざまところで、品川区はもう既に

に休館や面会中止・・・

#38 令和元年_第2回定例会(第3日目)

本文 2019-07-10



画像1:大崎ゆうゆうプラザ(品川区)

出所:生活協同組合 東京高齢協

・・・施設の老朽化が進んでいることから、大規模改修工事を行うものであります。東品川シルバーセンターについては、工事に伴い、東品川高齢者多世代交流支援施設への転換を図る・・・品川区立高齢者多世代交流支援施設条例の一部を改正する条例についてご報告申し上げます。本案は、高齢者の介護予防および生きがいづくりを支援するとともに、高齢者と多世代の区民・・・

#57 厚生委員会_本文 2018-09-18

・・・大規模改修に向けて進めているところでございます。今回はこの大規模改修に合わせまして、高齢者多世代交流支援施設(ゆうゆうプラザ)への転換を図りたい・・・

#62 厚生委員会_本文 2018-05-14

・・・品川区立平塚高齢者多世代交流支援施設運営事業者の選定に係る公募について、ご報告をさせていただきます・・・多世代交流のゆうゆうプラザは、平塚橋は特養ホームと一緒になので、指定管理者になっていますけれども、それ以外の大井も大崎も委託でやってきました。それを今回、指定管理・・・

#67 厚生委員会_本文 2018-02-26

・・・多世代交流ということで、基本的に1階が高齢者の施設、2階が子育て、保育施設ということで分かれています。動線についても、高齢者と保育の施設が、別々にされている・・・多世代交流の部分ですけれども、構造上、こちら狭い敷地の中での複合施設ということなので、入り口をどうしても別々にせざるを得なかった・・・

多世代交流における「居場所」としての実態

#73 行財政改革特別委員会_本文 2017-11-07

・・・シルバーセンターにつきましては、建て替え・大規模改修のタイミングで、高齢者多世代交流支援施設、いわゆるゆうゆうプラザでございますが、こちらへの転換も検討する・・・児童センターと多世代交流支援施設の関係であろうかと思っておりますけれども、ゆうゆうプラザ、事例で出していただきましたが、ゆうゆうプラザのほうは高齢者の施設が母体・・・

#85 区民委員会_本文 2017-04-21

・・・「品川多世代交流プロジェクト『けめカフェ』」。けめカフェです。子育て世代、シニア向けなど、孤立しやすい世代を対象に、さまざまなイベントを行います・・・

#87 行財政改革特別委員会_本文 2017-03-01

・・・シルバーセンターにつきましては、建替え、大規模改修のタイミングで高齢者多世代交流支援施設、ゆうゆうプラザと言っていますが、こういったところへの転換も含めて検討したい・・・

#96 厚生委員会_本文 2016-06-06

・・・民設民営の西大井いきいきセンターとなりました。運営主体のこうほうえんに対して助成をするものでございます。その下、高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）の運営でございます。高齢者の健康維持、増進を支援するとともに、高齢者と多世代の区民との交流を促進するものでございます・・・

#105 厚生委員会_本文 2016-02-22

・・・平塚シルバーセンターは、約44年経過し、施設が老朽化し、耐震補強ができない構造でございます。また、近隣に開設される平塚橋高齢者多世代交流支援施設と統合し、多世代が利用できる施設として新たに整備するため、平成28年5月1日付で廃止する・・・平成24年のシルバーセンターと平塚橋でこういうふうに複合施設化して、高齢者多世代交流支援施設をつくっていきます・・・

#123 平成26年_第4回定例会（第2日目）

本文 2014-12-12

・・・公共施設や高齢者施設が少なく、高齢者が歩いて行ける集いの場が欲しいという声も聞かれました。空き家を地域資源として、子育てや介護、障害者支援、多世代交流のコミュニティ活用等、地域貢献活動を行う区民やNPOの活動拠点に活用する支援は、市民との協働のまちづくり・・・

#124 平成26年（平成25年度）決算特別委員会（第7日目） 本文 2014-11-18

・・・新しいタイプのシルバーセンターとして、多世代が交流できる施設も設置される予定であり、かねてより多世代交流施設の必要性を訴えてきた者として、大いに歓迎し、全力で推進するものです・・・

#129 文教委員会_本文 2012-06-25

・・・異世代の交流ということで、シルバーセンターとの交流等も児童センターはやっているんですけども、さらにもし適正配置ということになれば、多世代交流施設などへの転換を検討していくというような形で、考えております・・・多世代交流館というのを検討するべきではないか・・・

多世代交流が議論に上がったのは2010年の2月が最初であった。そこから、実際に多世代交流場ができたのは、2016年である。「高齢者多世代交流施設」として議事録にあるように、「高齢者施設」を起点としている。具体的には、既存の「シルバーセンター」の老朽化、建替えを契機として「多世代交流施設」である「ゆうゆうプラザ」への転換を図る手法からスタートしており、今後も既存の公共施設の老朽化などを契機とした「多世代交流施設」への転換が図られるであろう。

(2) 品川区（東京都）のテキストマイニング

なお、テキストマイニングの実施日は2022年12月22日である。

1) 「単語出現頻度」(名詞)

名詞	スコア	出現頻度
世代	1341.87	374
交流	1792.95	368
高齢者	2051.64	354
施設	1645.46	331
支援	1436.53	325
課長	785.46	148
委員	807.28	138
地域	383.38	137
本文	729.09	126
条例	897.09	125
センター	242.62	111
プラザ	560.51	97
品川	369.41	87
シルバー	324.01	86
区立	828.89	84

図1:単語出現頻度(名詞)

多世代交流における「居場所」としての実態

スコアとしては「高齢者」が最も高かった(2051.64)。これは、「交流」(1792.95)、「施設」(1645.46)を大幅に上回っていた。「出現頻度」としても、「世代」(374)や「交流」(368)が上位となっていた。上位の名詞を概観すると、「高齢者」、「施設」、「支援」、「地域」、「条例」、「シルバー」、「センター」という高齢者やその関連施設であるシルバーセンターを中心に単語が並んだ。(図1)。

品川区の多世代交流場は「ゆうゆうプラザ」という施設であるが、元来高齢者施設としての機能をもつ施設であり、こうした背景がテキストマイニングに表出した。テキストマイニングでは表出しなかったが、議事録においては管理の議論がなされていた。これまでは委託が中心であったが、今後は管理を指定管理者に移行する趨勢となっている。

2) 「共起キーワード」

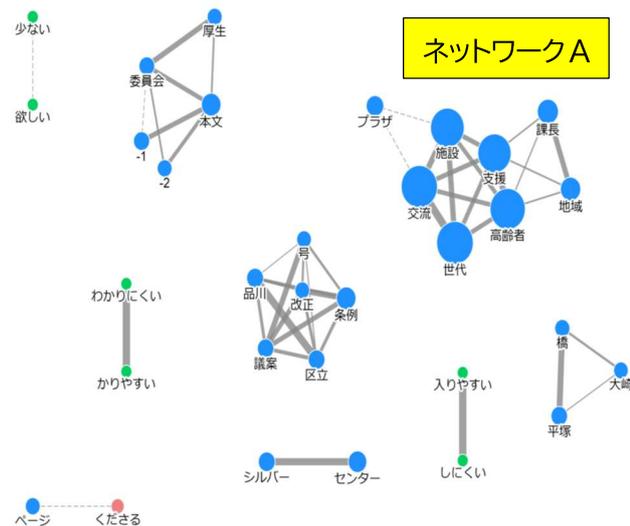


図2:共起キーワード

キーワードで繋がった「ネットワーク」としては、大小含めて、計「9個」出現している。注目すべきは、大きなネットワークである。最大のネットワーク〈ネットワーク A)では多世代交流に関する事象が連結されている。すなわち、品川区では高齢者を中心に支援や交流を目的に設置していることが推察される(図2)。

(3) 戸田市(埼玉県)における議事録の変遷

検索の結果、戸田市では、48件の日程が抽出された。議事録の変遷は現在から過去へ遡る表示となっている。

なお、検索日は2022年12月21日である。

令和4年3月定例会-03月02日-07号

・・・都市化の進展やコロナ禍で、人と人とのつながりが失われ、子どもも親も高齢者も孤立する人が増える中、子ども食堂などの居場所は人と人との温かなつながりを再構築し、地域に元気を取り戻すためのみんなの居場所としての機能を発揮するものと考えております。その意味で、子ども食堂は子供を真ん中にした多世代交流の拠点として、地域コミュニティの再生の切り札として進化していくのではないかと期待しております。・・・

令和2年9月定例会-09月03日-04号

・・・子供の支援策の一つに子ども食堂があります。2012年に初めの子ども食堂がスタートいたしまして、2016年には319か所、そして2019年、3年後には3,718か所と3年間で10倍以上に急速に広がっているという現状がございます。子ども食堂の第一人者とされておりますNPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長の湯浅誠氏によりますと、子ども食堂とは子供を真ん中に置いた多世代交流の地域の居場所であり、子ども食堂の支援を通じて誰も取りこぼさない社会をつくるとのビジョンを示されておられます・・・

令和2年3月定例会-03月26日-05号

・・・コミュニティセンター費について、委員から、新曽南多世代交流館の指定管理料が増額となっている要因について質疑があり、執行部から、今年度までの5年間の指定管理者による運営の中で、毎年赤字が発生していることから、来年度からの指定管理料が増額となっているとの答弁がありました。これに対し、委員から、赤字の縮小に向けた考えについて質疑があり、執行部から、来年度からの指定管理者の選定時に、仕様の中で自主事業をふやすよう変更するなど、収益を増やすための取り組みを進めるとの答弁がありました・・・

平成31年3月定例会(第2回)-03月04日-04号

・・・使用料を見直した理由につきまして、戸田市新曽南多世代交流館の施設使用料は、平成26年の開館に合わせ、当時の戸田市行政改革プランに示す受益者負担の原則に基づいて定めた経緯がございます。平成28年8月に受益者負担の見直し方針が改定され、新曽南多世代交流館も対象となっていたことから、使用料の改定時期を見定めていたところでございます。施設の指定管理者である公益財団法人戸田市文化スポーツ財団と協議した

多世代交流における「居場所」としての実態

結果、このたびの消費税率の引き上げ時期に合わせ、消費税の引き上げへの対応とともに、受益者負担の見直し方針に沿った使用料の見直しを実施する……………

平成29年3月定例会（第2回）—03月06日-05号

……新曽南多世代交流館につきましては、多世代にわたる市民や多様な文化を持った市民の交流を促進することにより、地域によるコミュニティの活性化を図る施設でございます。昨年の3月に昭和レトロ館をオープンし、本年3月25、26日には第1回さくらパル祭りを開催するなど、より多くの地域の方が活用していただけるよう工夫して運営をしております。新曽南多世代交流館でのチャレンジショップの実施につきましては、施設の目的にも合致しており、また、市民生活部では男女共同参画や市民活動支援を所管しておりますことから、実施は可能……福祉センターでの多世代交流に関しては、昨年の3月議会に市民の方から捺印つきで506筆の陳情書が提出され、私もそれに合わせて一般質問を行いました。その趣旨は、全体の稼働率が3割を下回っている市内の福祉センターを、高齢者以外の利用者にも開放し、多世代間の交流や子供を持つ親同士の交流が生まれる施設として見直してはどうかというものです。その年の8月、新曽福祉センターにあるいこいの室という広い畳敷きの部屋が、従来の高齢者に加え、未就園児とその保護者に対する多世代交流スポットとして試行的に開放されました。しかし、その多世代交流スポットを利用されたお母さん方から聞いたところによれば、実際に乳幼児を連れていこいの室に入ってしばらく滞在したものの、子供の泣き声であったり、走り回る音であったりで、周り的高齢者に気を使ってしまう。既に置いてあるテーブルの角に子供がぶつかってしまう心配がある。子供を遊ばせるおもちゃがないなど、決して居心地のよいものではなかったとのこと……同じ年の9月にオープンした上戸田地域交流センター「あいパル」は、多世代交流というコンセプトをもとに上戸田福祉センターを建てかえてできた施設ですが、そこには多世代交流施設としての理想的なあり方が提示されていました。それは、乳幼児とその保護者向けにはキッズルームというガラスや壁で仕切られた部屋が設けられる一方で、多世代交流スペースという全ての年代が利用できる畳敷きのフリースペースが用意されているというものです。私がいこいの室を利用するときは、いつもキッズスペースだけではなく、多世代交流スペースも多くの世代の方々と大変にぎわって



画像2:新曽南多世代交流館「さくらパル」(戸田市)

出所:さくらパル

ます……

平成28年9月定例会（第4回）—09月07日-06号

……福祉センターの多世代交流について……新曽福祉センターで試行的に実施しました多世代交流スポットの検証結果についてお答えします。この試みは、平成27年8月から9月の2カ月間、毎週火曜日と木曜日の午前10時から午後3時まで、老人いこいの室を未就園児親子にも開放し、高齢者との交流の場として実施をいたしました。周知については、福祉センター内にポスター掲示やリーフレットを設置しPRに努め、いこいの室利用者の方々にも事前説明を行い、御理解をいただき実施したところでした。参加状況については、全17日の開催期間中、9組の未就学児親子の利用があり、小さいお子様と高齢者が会話するほほ笑ましい場面も見られました。しかし、子供が遊ぶおもちゃや絵本等が不足していることや、いこいの室利用者の中には休息のため静かに過ごしたい方もおり、室内への幼い子供の受け入れに困惑している方も見受けられました。利用者へのアンケート結果と実績を検証しますと、場の提供だけでは人が集まらないこと、ホームページやフェイスブックなど、若い世代へのPR方法の工夫、お互いに居心地のよい空間をつくるためのルールづくり、さらに、おもちゃや絵本など、交流や居場所の仕掛け等の環境整備が課題として挙げられました……

平成27年3月定例会（第2回）—03月06日-05号

……福祉センターの見直しが必要ではないかと思えます。新曽南の「さくらパル」、また、上戸田福祉センターを建てかえる「上戸田地域交流センター」など、多世代交流をコンセプトとした公共施設の整備が戸田市で進

多世代交流における「居場所」としての実態

んでおります。子育て世代の中にも、高齢者とかかわりたい、また、自分の子供を高齢者と交流させたいとお考えの方々もいらっしゃいます。また、子育てが落ちついて、赤ちゃんや子供と触れ合いたいとお考えの高齢者の方もいると思います。それらの方々交流できるような場所で、例えば、お弁当を持ち寄って食べるなどよいのではないかと思います。現在は、福祉センターを高齢者の方が利用している一方で、子育て世代の方がファストフード店や、また、大型ショッピングモールのフードコートに集まっているということで、世代間に断絶があるのではないかと感じております・・・事業の一つとしては、新曽南多世代交流館「さくらパル」がございます。さくらパルは、自由に使える交流スペースを広くとるなど、幅広い世代の市民が集まり、交流を図ることのできる施設として、昨年4月にオープンいたしました。平成27年度からは指定管理者制度を導入し、交流のきっかけとなるような施設主催事業の実施により、今まで以上に多くの地域の皆さんに利用していただき、多世代や多様な市民の交流を推進していきものと考えております。次に、多世代交流ひろば「わいわいスポット」について御説明申し上げます。わいわいスポットは、身近な地域で、幅広い世代の市民が気軽に集まり、いつでも交流できる場所をつくることにより、地域コミュニティが活性化されるとの考えから、平成26年12月からスタートした事業でございます。現在は、各施設の既存の場所を活用する形で、さくらパルを初めとする4つの公共施設と、2つの民間施設の、計6カ所となっております。下戸田地区には民間施設の「まけっと」と「オリーブ」があり、上戸田地区には福祉保健センターと男女共同参画センター、新曽地区にはさくらパル、美笹地区には西部福祉センターがございます・・・市内の方から陳情が提出されました。件名は、「新曽福祉センター内、多世代交流スペースの常設に関する陳情」です。538筆の署名のうち捺印付きの署名は、陳情提出者を含めて506筆集まったとのことです。本日も傍聴にいらっしゃっておりますが、議事録に残すためにも、ここで陳情文書表を読ませていただきます。要旨。新曽福祉センター内に、子育て世帯と地域住民の方々居場所として、常設の多世代交流スペースを設けてください。理由。新曽地区（特に新曽北小学校周辺）には、遊具のある公園が少なく、また、児童館の機能を有した施設もないことから、未就学児や小学生が遊んだり、保護者同士が気軽に集ったりすること

が難しい状況です。その対策として、未就学児に関しては、小学校の学童保育室を利用した「親子ふれあい広場」や、福祉センターの会議室を利用した「ぷくぷく」が実施されています。しかし、それらは既存施設の空き時間に開催するものであるため、「親子ふれあい広場」は学期中の午前のみの実施、また、「ぷくぷく」は不定期かつ短時間の開催となっており、利用者にとってはとても不便です。さらに、利用は、おおむね3歳未満の子供とその保護者に限定されている・・・保護者同士が気軽に集える場もほとんどなく、異年齢の子を持つ親同士の交流が生まれにくい状況にあります。新曽福祉センターが、子供や子育て世代にとって気軽に入りやすく利用しやすい施設であれば・・・期待できます。しかし、現状では、一部の利用者のための施設となっています。新曽福祉センターが全ての世代に開かれた施設になるよう、新曽福祉センター内に多世代交流スペースを常設することを求めます、というものです。この陳情の内容に対して、例えば、こどもの国やプリムローズがあるのではないかと、という疑問をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、新曽北小学校区から気軽に行ける場所にはありません。過去の議会でもお話ししましたが、蕨市では小学校区にほぼ1つの児童館があります。近くにあるということは意外に重要で、歩いて行けるというメリットや、また、地域の人で集まりやすいというメリットもあります。さらに、戸田市は子育て関連の施策が充実しているという意見もあると思いますが、戸田市の子育て施策に多いのはイベント型のもので、あそこに行けば誰かがいるというような常設型の居場所が少ないことは、見落とされているのではないかと思います・・・

平成26年12月定例会（第4回）—12月03日-03号
・・・来年度からは指定管理者による管理運営へと移行することになると思いますが、オープンして約8カ月が経過しておりますので、現況について、以下質問をさせていただきます。新曽南多世代交流館は、平成26年4月6日にオープンしましたが、施設の利用状況につきましては、貸館の一般利用を開始した4月22日から11月末までの間の利用者数について御報告させていただきます。音楽練習室は1,066人、多目的室は3,051人、会議室は4,438人、和室は4人の利用となっております。なお、和室につきましては、日中はリースペースとなっていることから、夕方4時以降の貸し室として利用された人数が4人ということでございます・・・幅

多世代交流における「居場所」としての実態

広い多世代交流の場とすることを目指し、自由に使える交流スペースを広くとり、ラウンジや廊下にソファを配置するなど、市民が集まり、交流を促すことのできる施設として設置いたしました。開設から11月までの、フリースペースの利用者は約6,180人で、午前中は小さな子供を連れて親子の方、午後になると児童や学生が多い傾向があり、スペースの設置目的に合った一定数の利用があると考えております。当然、利用者同士の交流はあるものと思いますが、多世代交流が積極的に図られているかどうかなど、詳細な把握はできておりません。次に、*toco* バス西循環のルート変更は考えられないかについてお答えいたします。市では、本年2月に、埼京線の西側地域を中心に利用状況を把握するため、無作為抽出の2,000人を対象に、郵送でのアンケート調査を行いました。アンケート結果では、ルート変更については、商業施設や公民館、市役所経由への意見が多くございましたので、さくらパルへのルートにつきましても、今後の西循環のルート変更時には検討させていただきたいと思っております。

平成23年9月定例会（第4回）—09月08日-03号

・・・跡地建物の利活用についてですが、答弁ではフロアを分けて、地域コミュニティ施設として整備できたらとの御答弁をいただいて、ありがたく思っているところでございますが、今後、地域コミュニティの活性化のためにも地元の考えを最優先に進めていただきたいわけですが、去る8月8日の埼玉新聞に、さいたま市南区に多世代交流拠点としての地上10階、地下1階建ての大型複合施設が来年5月にオープンするという記事が載っておりましたが、ここはまさに幅広い世代の交流拠点として、コミュニティセンター機能の中心の施設として期待されている・・・

平成7年6月定例会（第3回）—06月12日-03号

・・・子供から高齢者まで一緒に行える多世代間交流を育むスポーツという観点で考えますと・・・三代で楽しむためには、不特定多数の高齢者が参加でき、しかも、若い人たちから子供たちが、一緒に楽しくプレーできることが必要だと考えています・・・

多世代交流が議論に上がったのは1995年の6月が最初であった。そこから、実際に多世代交流場ができたのは、2014年である。「多世代交流館」として議事録にあるように、当初から高齢者から子供まで多世代を念頭に設置されている。「新曽南多世代交流館は、人と人とを

つなぐ交流の場として多くの人に活用いただけることを想定」されて新設された。その後は「多世代交流ひろば」として、多世代交流場を拡大している。

(4) 戸田市（埼玉県）のテキストマイニング

なお、テキストマイニングの実施日は2022年12月22日である。

1) 「単語出現頻度」（名詞）

名詞	スコア	出現頻度
交流	397.81	119
世代	248.66	116
施設	320.81	97
利用	57.95	49
鑑	86.92	42
地域	51.18	37
市民	102.65	36
福祉センター	313.90	35
市	45.57	31
子供	9.79	31
高齢者	71.08	29
新曽南	348.64	28
定例会	154.16	28
パル	119.47	25
設置	37.61	25

図3:単語出現頻度(名詞)

スコアとしては、「交流」が最も高かった(397.81)。これは、多世代交流施設の主要な対象と考えられる「高齢者」(71.08)、「子供」(9.79)などを大幅に上回っていた。「出現頻度」としては、「交流」、「世代」、「施設」が上位となっており、これらの単語はそれぞれ、スコアも119、116、97と高い数値であった。上位10件の名詞を概観すると、「利用」、「地域」、「市民」、「福祉センター」、「新曽南」という多世代交流や共生に関連する単語が並ぶ。「多世代交流」を展開するにあたり、公的施設や共生の概念が重要であることの示唆であろう(図3)。

2) 「共起キーワード」

キーワードで繋がった「ネットワーク」としては、大小含めて、計「8個」出現している。ここでも注目すべきは、大きなネットワークである。最大のネットワーク(ネットワークB)では戸田市の多世代交流場の基点である新曽南多世代交流館を中心に関連事項が連結されて

多世代交流における「居場所」としての実態

が増えることは有用であろうが、それが多世代交流としての居場所が有用であるのか、多世代交流でなくとも居場所（たとえば、従前の高齢者専用施設など）であれば有用であるのかなど、利用者に対するアンケート調査などを適切な時期に実施することが重要となるだろう。現状では、議事録にみられたように、たとえば高齢者にとって従前の高齢者施設と多世代交流場との明確な差異を発見することは容易ではない。高齢者施設であっても、多世代に開放すれば多世代交流場になり得るし、多世代交流場であっても、利用を高齢者に限定すれば高齢者施設となる。今後の課題としては、多世代交流場と既存の公共施設とのすみ分けを明確にした上で、それぞれの場でしか実践できない事象を多く創出して子供から高齢者までの多世代が集う場とすることである。

これまでの考察を総括すると、多世代交流場における居場所としての実態はハードとして整備されているものの、ソフトとして利用者にとって有用であるか否か、評価できる領域までは到達していないと指摘できる。また、指定管理者制度を活用するなどした公設民営による運営が主流となっている。本稿では、首都圏の2つの自治体に着目した。いずれの施設も一見ただけで公共施設とわかるが、千葉県旭市の多世代交流施設（おひさまテラス：2022年4月開設）のように、当初から民間施設のなかに設置された最新型の施設も出現している。こうした施設との比較により新たな知見が得られる可能性があるが、今後の研究課題としたい。本稿により、多世代交流に関する議論の拡張とともに、一定の示唆を提供するものと期待される。

注

¹⁾ 厚生労働省は、重層的支援体制整備事業創設の背景として、「・・・国民生活も変化する中で、様々な支援ニーズが表出して、これまでの福祉政策が整備してきた、子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者といった対象者ごとの支援体制だけでは、人びとが持つ様々なニーズへの対応が困難となった・・・（中略）・・・人と人とのつながりや参加の機会を生み育む多様な活動を通して、これまでの共同体とは異なる新たな縁が生まれた。その中には、特定の課題の解決を念頭に始まる活動だけでなく、参加する人たちの興味や関心から活動が始まり・・・（中略）・・・関係性が豊かなコミュニティが生まれている活動もある。このように、社会の変化に伴って生じ

ている課題と、これからの可能性の両方に目を向けた上で、重層的支援体制整備事業を設計した」としている。

【謝辞】

本稿は、法政大学大原社会問題研究所、戸田市議会の関係者の方々との関連が起点となっている。ここに記して感謝申し上げます。

【文献】

- ・ 清宮宏臣（2007）「介護福祉士養成における多世代交流の意義について：ことぶき大学校生との交流から」『植草学園短期大学紀要』8(0)：47-64.
- ・ 地方行政システム研究所（1991）『余暇時代における多世代交流施設のあり方に関する調査研究』.
- ・ 福永美咲（2016）「郊外住宅地における多世代交流のためのコモンスペースに関する研究 -住民主導による屋外広場の取り組みから-」『横浜国立大学地域実践教育研究センター地域課題実習・地域研究報』2016年度：64-65.
- ・ 平戸敦子・佐藤将之・谷本裕香子・鄭研容（2019）「ひばりが丘団地界隈の地域コミュニティづくり拠点における活動からみた多世代交流に関する考察」『人間・環境学会誌』22(1)：15.
- ・ 松田道雄（2017）「多世代交流学習を試みる（特集 教育の現在と未来）」『尚絅学院大学紀要』（73）：23-26.

【WEB サイト】

- ・ さくらパル
http://www.todacity-culturehall.jp/sakurapal_top.html#（2022/12/23 閲覧）.
- ・ 生活協同組合 東京高齢協
<http://t-koureiyou.or.jp/home/sisetu/osaki/>（2022/12/22 閲覧）.
- ・ 戸田市、「人口世帯」
<https://www.city.toda.saitama.jp/site/opendata/jinkou-setai.html>（2022/12/1 閲覧）.
- ・ 戸田市議会会議録検索システム
https://www2.city.toda.saitama.jp/gikai/voices/g07v_search.asp（2022/12/21 閲覧）.
- ・ 品川区、「区政情報」
<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kuseizyoho/kuseizyoho-siryu/kuseizyoho-siryu-toukei/index.html>（2022/12/1 閲覧）.
- ・ 品川区議会会議録
<https://kaigiroku.city.shinagawa.tokyo.jp/index.php/>（2022/12/21 閲覧）.